

令和5年度「近いがうまい埼玉産」地産地消推進会議議事録

- 1 日 時 令和5年7月21日（金）10時00分～12時00分
- 2 場 所 知事公館1階 大会議室
- 3 出席者 別添のとおり
- 4 概 要

（1）開 会

（2）あいさつ（横塚農林部長）

- ・ 県産農産物サポート店や量販店の県産農産物コーナーの現状を報告
- ・ 「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が世界農業遺産に認定されたことを報告

（3）議事

「近いがうまい埼玉産」地産地消推進会議設置運営要領第4条1項に基づき、会長である横塚農林部長が議長に就任。

ア 令和4年度県域及び地域における取組について

- ・ 資料1に基づき、県域における取組について中村農業ビジネス支援課長から説明
- ・ 資料2に基づき、地域における取組について中村農業ビジネス支援課長から説明

イ 各団体の取組について

- ・ 資料3に基づき、各団体における取組及び計画について各団体の出席者から説明

令和4年度の取組

【埼玉県消費者団体連絡会】

- ・ 第58回埼玉県消費者大会食分科会の開催
- ・ 食品表示や「みどりの食料システム戦略」等に関する勉強会の開催
- ・ 埼玉県食品衛生安全局との懇親会を開催

【新日本婦人の会埼玉県本部】

- ・ 生産者との交流、農業体験の実施
- ・ 大豆トラスト運動での味噌づくりの実施
- ・ 食の安全に関わる農薬及び添加物等の学習

【公益社団法人埼玉県栄養士会】

- ・ 市民健康栄養講座の開催
- ・ 各地域での実習や料理教室を活用した地産地消の推進
- ・ 埼玉県牛乳普及協会 第42回牛乳・乳製品料理コンクールへの協力

【埼玉県食生活改善推進員団体連絡協議会】

- ・ 食育月間、食育の日の普及啓発

- ・ 県産米を使った県民向けの料理教室の開催
- ・ 地場産の食材を使ったコバトン健康メニューの開発・普及

【埼玉県農業協同組合中央会】

- ・ メディアを通じた県産農産物のPR
- ・ 県産米新米キャンペーンの実施
- ・ 浦和レッズと連携し、ごはん食の大切さを伝える動画の配信

【全国農業協同組合連合会埼玉県本部】

- ・ 各種キャンペーン協議会等と連携し、メディアを通じた県産農産物のPR
- ・ スーパー、量販店への県産農産物の販促強化及び地域内流通の強化
- ・ 大田市場PRイベント等、各種イベントにおけるPRの実施

【一般社団法人埼玉県青果市場連合会】

- ・ 地産地消の取組等について、会報誌への掲載や取組に向けたPR
- ・ 県産野菜の量販店での販売促進（行田在来えだまめ、丸系八つ頭）

【公益財団法人埼玉県学校給食会】

- ・ 学校給食への県産農産物導入推進（国産もち麦、埼玉県産八頭コロッケ等）
- ・ 児童生徒向け埼玉県農産物ポスターの作成
- ・ 学校給食調理コンクール、学校給食親子料理教室等の開催

【埼玉県商工会連合会】

- ・ 商工会や商工業者による県産農産物を活用した特産品開発や販路開拓の支援
- ・ 全国物産展における物産品開発業者の出展支援

【一般社団法人埼玉県食品衛生協会】

- ・ 食品衛生に関する講習会の開催
- ・ 食品衛生指導員による施設の巡回指導

令和5年度の取組計画

【埼玉県消費者団体連絡会】

- ・ 第59埼玉県消費者大会食分科会の開催
- ・ 埼玉県食品衛生安全局との懇親会の開催

【新日本婦人の会埼玉県本部】

- ・ 農業体験や手作り体験会、料理会などの産直ツアーの実施
- ・ 県産米の消費拡大や食の安全にかかわる学習会の実施

【公益社団法人埼玉県栄養士会】

- ・ 市民健康栄養講座の開催
- ・ 彩の国米まつりにおける食生活相談等の実施

【埼玉県食生活改善推進員団体連絡協議会】

- ・ 食育月間、食育の日の普及啓発
- ・ 県産米を使った県民向けの料理教室の開催
- ・ 地場産の食材を使ったコバトン健康メニューの開発・普及

【埼玉県農業協同組合中央会】

- ・メディアを通じた県産農産物のPR
- ・県産米新米キャンペーンの実施
- ・彩の国食と農林業の祭典「2023 彩の国食と農林業ドリームフェスタ」の開催

【全国農業協同組合連合会埼玉県本部】

- ・各種キャンペーン協議会等と連携し、メディアを通じた県産農産物のPR
- ・スーパー、量販店への県産農産物の販促強化及び地域内流通の強化
- ・「2023 彩の国食と農林業ドリームフェスタ」等のイベントにおけるPRの実施

【埼玉県食品工業協会】

- ・ふるさと認証食品、特にプレミアムの推進
- ・県産農産物を利用した加工食品の開発、販路拡大、広報活動

【一般社団法人埼玉県青果市場連合会】

- ・県産野菜の量販店での販売促進（行田在来えだまめ、丸系八つ頭）
- ・産地と県内市場間で情報交換会の開催

【公益財団法人埼玉県学校給食会】

- ・学校給食への県産農産物導入推進（地域特産品の掘り起し）
- ・児童生徒向け埼玉県農産物ポスターの作成
- ・学校給食親子体験教室や調理講習会等の開催

【埼玉県商工会連合会】

- ・商工会や商工業者による県産農産物を活用した特産品開発や販路開拓の支援
- ・全国物産展における物産品開発業者の出展支援

【一般社団法人埼玉県食品衛生協会】

- ・食品衛生に関する講習会の開催
- ・食品衛生指導員による施設の巡回指導
- ・食品営業者のHACCPによる衛生管理の推進

ウ 質疑応答

- ・埼玉県消費者団体連絡会 柿沼氏

Q 学校給食会が実施したイベントは、県産食材を取り扱ったかイベントか。

A 学校給食会では、主食に使う米については県産100%、パンや麺についても県産小麦を一定程度使うなど、県産食材を積極的に活用している。イベントにおいても、例えば、食材の情報研修会では、県産食材を中心に県内の学校や養護教諭等へ紹介している。副菜についても、県産農産物を利用した食材を現在約50品目の取り扱っており、展示会等で紹介している。（埼玉県学校給食会 田島氏）

・ 埼玉県消費者団体連絡会 廣田氏

Q 彩のきずなほどの程度生産拡大しているのか。

A 6,500ha。県全体の米の作付面積の22.7%が彩のきずなである。(農林部長)

Q 直売所において、彩のきずながコシヒカリより安く販売されているのを見たことがある。安く購入できること自体は消費者にとってありがたいが、生産者の所得向上のため、高価格帯での販売の働きかけなどは行っているのか。

A 業界の中で価格が既に定着している。特Aの受賞をきっかけに、高い価格で販売してもらえるよう量販店等へ働きかけを行っているところである。(農林部長)

Q タマシャモ農家に対する支援状況はどうなっているのか。

A 卵を産んだ後に、肉用の鶏としても利用価値のある、タマシャモの良さを引き継いだ新たな採卵鶏を農業技術研究センターで開発中である。県内には採卵鶏農家も多くいらっしゃるため、そういった農家にも活用いただけるようにしたいと考えている。(畜産安全課)

Q 県庁朝市再開に向けた取組状況はどうなっているのか。

A 新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、実施できる環境が整いつつある。県として、会員に対し再開希望等についてアンケートを実施し、県庁朝市出店者の会と協議を行っている。(事務局)

Q 県内学校における学校ファームの実施率はどうなっているのか。

A 平成25年度以降、ほぼ全校で実施されている。(事務局)

Q 埼玉県学校給食会が開発したもち麦の品種は何か。

A キラリもちを使用している。(埼玉県学校給食会 田島氏)

・ 埼玉県食生活改善推進員団体連絡協議会 櫻井氏

Q 埼玉県学校給食会が開発した埼玉県産八頭コロッケの配合の内訳を教えてください。

A 八つ頭が42%、その他は玉ねぎとじゃがいもを使用している。(埼玉県学校給食会 田島氏)

- ・ 埼玉県 横塚農林部長

Q 米について、全国的に年間 10 万トンの消費量が減少するなかで、主食用米だけでなく、飼料用米や米粉用米についても推進を図っている。特に、米粉については、一般家庭への普及拡大に向けて、御協力いただきたい。

A 米粉のメニュー開発は難しい。(埼玉県食生活改善推進員団体連絡協議会 櫻井氏)

家庭では、米粉はシチューのとろみ付けや、天ぷらに使用する程度である。

(埼玉県消費者団体連絡会 廣田氏)

米粉は主役としてではなく、天ぷらなどに使う程度なのが現状である。小麦粉が値上がりする一方で、デパートでは高級パンが売れている。既存の小麦粉のパンに負けないような価格で販売できれば米粉のパンも売れると思う。(埼玉県消費者団体連絡会 柿沼氏)

エ 令和 5 年度地産地消運動の取組方向 (案) について

- ・ 資料 4 に基づき、令和 5 年度地産地消運動の取組方向 (案) について中村農業ビジネス支援課長から説明。異議なく承認された。

オ 質疑応答

- ・ 埼玉県消費者団体連絡会 柿沼氏

Q 埼玉県物産観光館「そぴあ」と連携した 6 次産業化商品等の販売について

A 産業労働部と連携しながら販売や P R に努めたい。(事務局)

(4) その他

- ・ 県の地産地消の取組等について紹介したパンフレット及びチラシを配布

(5) 閉 会